

一 あり波の若ふさけり致さ月成
まゝあゝさしてぬる志く浪

右達 殿用 沖裂

下総の若田の浦よ海とがふる

まの有はは浪り知りあん

又曰く

長崎所寄

高木徳兵衛の娘

飛雲むきはあふのまきり衣

秋はあひのこも花もく

一 同年八月廿一日大坂淀川所發ゆいし砂場門妻

男子二人何時よお産ま

大坂旅 沖城水野河内と家士居候事

一 大坂在番大御番頭水野河内と家士波多能祖太の

延享三年六月七日大坂旅 沖城討果ゆき候侍

岡安右膳と者定谷迫の英しき男色をり死に在甚小

やの月と討果ゆき負死たれ

鈴木甚藏

山下深助

今泉右平左

岡安右膳

石死

石死

惣存命
お早

子底

相馬可造

行旅至祝廟

本堂傷

右祖父雨車沖塔山花込相果山翌八日死骸引上ケル祖
父の持扇を置と残之

辞世 延享三丙寅年十一月七日

波多禮祖父の

實名千守

或士の歌よ生を又るれとも

かく成行をたふ成りたり

君と知りちるふ得止るいむし今も是も忘

慕の切なる庵一も荒道と好む人か志す物事か
くの如く書残し荒道の為し月と果ししゆり時と

丁々

松平讃政と京都に 御使の席に

禁裏と下川料理屋新立し事

一 延享二丙午年十二月 將軍宣下お御しし身為治

一 使上京

繪續

汁

御煮物

御食

御香物

炊焼

御汁

御たし

御汁

御酒

湯